

病院と地域をおすぶ

南生協病院の理念 私たちは、ともにあゆむ医療で、笑顔と

「ありがとう」があふれる病院をめざします



パイプライン



2022年7月号

発行：2022.7.7 総合病院 南生協病院

電話番号 052-625-0373

6月

一日外来患者数：632人 一日入院患者数：272人

ベッド稼働率：87% 救急車：233台 手術数：148件

緩和ケア病棟が開設 20周年を迎えました



20年間で 3800 人余りの方が利用されました

南生協病院の緩和ケア病棟は乳癌患者会など利用者の声に応え2002年6月2日開設しました。20年間で3800人余りの方が利用されています。緩和ケア病棟にはボランティア「かけはし」があり、午後のお茶の提供と病室・病棟を花で飾るサービスをしています。がん体験者やご遺族も参加するボランティア「かけはし」の存在が緩和ケア病棟を明るく穏やかな場にしています。コロナ渦で面会制限がある中、できるだけ自宅療養をとという方が増えています。それでも、自宅療養が限界になり入院が必要になることがあります。この2年、緩和ケア病棟は在宅診からの緊急依頼での入院が増えています。在宅診療所・訪問看護との連携を強化し、がんになっても安心して暮らせる地域作りに貢献する所存です。いま必要な方、これから必要になるかもしれない方など、お気軽に利用のご相談をいただくとさいわいです。



右コードにて「緩和ケア病棟 20周年記念誌」がご覧いただけます。
<https://www.minami-hp.jp/news/wp-content/uploads/2022/07/6475dc938f8bb6f8cbc7bb65c9c1be38.pdf>

ガス炊飯器が新しくなりました

2002年6月から大切に使い続けた「ガス炊飯器」が新しくなりました。

実は…故障することなく365日1日3回御飯を炊き続けてきました。残念ながら引退をしましたがその後継機がようやく2022年6月に納品されて使用を開始しています。「ふっくら炊けた御飯」が食べた時の印象です。

これから長い間大切に使い続けて患者様に美味しい御飯をお届け出来ればと思います。

お釜もピカピカになりました。1釜で5kg炊けます。

ちなみに1合は米約150g1回に約33合の御飯が炊けます。



夏に多いこどもの皮膚感染症 ♪ 予防は皮膚を清潔に ♪



夏に多い子供の感染症の一つに「とびひ」があります。「とびひ」は医学用語で「伝染性(でんせんせい)膿痂疹(のうかしん)(水疱性膿痂疹(すいほうせい)のうかしん)」と呼びます。皮膚に常在する細菌(黄色ブドウ球菌)の感染が原因です。虫刺され、あせも、湿疹で痒みのある部位をかきむしる事で皮膚がびらん(ジュクジュク)となり、そこに水ぶくれができ、水ぶくれが破れた時に出る体液が周囲の皮膚に付着して症状が広がります。治療は、抗生物質の内服や外用薬が中心です。治療すれば、かさぶたとなり治ります。ただ、治療となる前にとびひにならないよう予防が大切です。

まず毎日シャワーや入浴をして皮膚の清潔を保つ事が第一です。そうすることであせもや湿疹をある程度予防出来ます。爪の手入れも大事です。汚れた手で爪をたてて皮膚をかき、かき傷に細菌がつくととびひになります。擦り傷やかき傷の保護や手当(水道水で傷口を洗う)や、虫刺され、あせも、湿疹の治療(外用薬などで痒みや炎症を和らげる)も重要です。予防してもとびひになってしまったら、病院を受診しましょう。広範囲の症状の時は、他の子供との接触を控えるため幼稚園や保育園を休ませるケースもあるので早めの対処が必要です。

